

単位換算表

測る(長さ)

| すん 寸 | しゃく 尺 | けん 間 | ちよう 町 | り 里 | メートル |
|---------|----------|----------|----------|-----------|----------|
| 1 | 0.1 | 0.016666 | 0.000277 | 0.0000077 | 0.0303 |
| 10 | 1 | 0.166666 | 0.002777 | 0.000077 | 0.30303 |
| 60 | 6 | 1 | 0.01666 | 0.000462 | 1.81818 |
| 3600 | 360 | 60 | 1 | 0.027777 | 109.0909 |
| 129600 | 12960 | 2160 | 36 | 1 | 3927.27 |
| 33 | 3.3 | 0.55 | 0.009166 | 0.000254 | 1 |

度る(面積)

| つぼ 坪 | うね 畝 | たん 段(反) | ちよう 町 | 平方メートル | アール |
|---------|----------|------------|----------|---------|----------|
| 1 | 0.033333 | 0.003333 | 0.000333 | 3.30579 | 0.033057 |
| 30 | 1 | 0.1 | 0.01 | 99.1736 | 0.991736 |
| 300 | 10 | 1 | 0.1 | 991.736 | 9.91736 |
| 3000 | 100 | 10 | 1 | 9917.36 | 99.1736 |
| 0.3025 | 0.010083 | 0.001008 | 0.0001 | 1 | 0.01 |
| 30.25 | 1.00833 | 0.10083 | 0.010083 | 100 | 1 |

量る(容積)

| しゃく 勺 | ごう 合 | しよう 升 | と 斗 | こく 石 | リットル |
|----------|---------|----------|----------|----------|----------|
| 1 | 0.1 | 0.01 | 0.001 | 0.0001 | 0.018039 |
| 10 | 1 | 0.1 | 0.01 | 0.001 | 0.18039 |
| 100 | 10 | 1 | 0.1 | 0.01 | 1.8039 |
| 1000 | 100 | 10 | 1 | 0.1 | 18.039 |
| 10000 | 1000 | 100 | 10 | 1 | 180.39 |
| 55.4352 | 5.54352 | 0.55435 | 0.055435 | 0.005543 | 1 |

量る(重量)

| もんめ 匁 | ぶ 分 | きん 斤 | かん 貫 | グラム | キログラム |
|----------|---------|----------|----------|-------|----------|
| 1 | 10 | 0.00625 | 0.001 | 3.75 | 0.00375 |
| 0.1 | 1 | 0.000625 | 0.0001 | 0.375 | 0.000375 |
| 160 | 1600 | 1 | 0.16 | 600 | 0.6 |
| 1000 | 10000 | 6.25 | 1 | 3750 | 3.75 |
| 0.26666 | 2.6666 | 0.001666 | 0.000266 | 1 | 0.001 |
| 266.666 | 2666.66 | 1.66666 | 0.266666 | 1000 | 1 |

展示期間：平成27年7月7日(火曜)～8月30日(日曜)
あわらし市郷土歴史資料館(0776-73-5158)

はかる-あわらの民具-

あわら市郷土歴史資料館
一般展示室企画展示ゾーン

民具とは大まかに言うと「これまで人々が生活してくるのに使用してきた道具」を指します。それは様々な時代のあらゆる道具を意味するので、実に多種多様な生活道具が民具として扱われます。

当資料館にも500点近い様々な種類の民具がこれまでに市民の皆様から寄贈され收藏されています。今回はその中から「はかる」道具を展示しました。

「はかる」には重さ・容積を「量る」道具、長さを「測る」道具、数を「計る」道具などがあり、今回はその中でも「量る」道具を中心に展示しています。

今では使われなくなってしまった道具たちですが、ご年配の方でしたら子供の頃見たよとか、ひょっとするとまだ納屋の隅においてあるよという方もおられるかもしれません。

昔を懐かしみながら観覧いただければ幸いです。

1 容積を「量る」道具 「枡」

枡は容積を「量る」道具で古くは「升」とも書きました。量によって枡の大きさが変わり、一合枡（0.18リットル）・一升枡（1.8リットル）・一斗枡（18リットル）などがあります。一合枡などは今でも居酒屋行くとそれで日本酒を出してくれるところもあるので、お酒好きな方でしたらよくご存知でしょう。

使い方は簡単で容量を量りたいものを、量に応じた枡に入れるだけです。大型の斗枡は農家や商家で使用され、特に穀物を量るのに使われました。穀物を斗枡に多めに入れ上にはみ出た



角型斗枡



斗棒



じんりんきんもろうざい
人倫訓蒙図彙 卷3
就農図



丸型斗枡

分を斗棒（別名かきぼうともいいます）で平らにならして量を測りました。近畿地方では米寿のお祝いをされた人が、お祝いをくれた親戚やご近所の方に斗棒を配りました。もらった家ではその斗棒で米をならすと長寿にあやかることができ、健康で幸福になるといわれていたそうです。

また、斗枡には丸型と角型の二種類があり、使い方に大きな差はなかったようですが、角型は誤差が大きいので明治時代末以降には丸型に統一されました。

近世の枡は年貢米を量る基準として使われていたので、容量が適正であることを示すために京都や江戸に設けられた枡座の焼印が押されていました。しかし、実際には地域により、枡の大きさは微妙に違っており一定ではありませんでした。

天領の枡は小さく（といってもものすごく大きさが違ったというわけではないそうです）、また年貢も藩領に比べると軽かったので天領をうらやむ人が多かったとされています。

2 重さを「量る」道具 「棒秤」

日本で最初に「はかり」という言葉が現れるのは「新撰姓氏録」（平安時代に編纂）で、^{しんせんしょうじろく}上毛野久比^{かみつけのくび}という人が中国の呉国に派遣され、そこから「權」というものを持ち帰って崇峻天皇（在位 587 年～592 年）に献上した

ところ、天皇が「これはなにか」と尋ねました。それに対する久比の解答が「あらゆるものの重さを調べ、交易に使う^{はかり}波賀里^{はかり}というものです」とあり、これが天



棒秤



皿 秤

秤なのか棒秤だったのかは定かではありませんが、6世紀後半には「はかり」が日本にもたらされてきたことがわかります。

秤自体は古代エジプトの死者の書にも描かれている通り紀元前から使われていますが、そこではあるものと同じ重さのものを量るという行為で、錘と目盛によって重さを「はかる」行為ではありませんでした。秤が作られた初期の頃は重さの基準は穀物などで行なわれ、西洋では麦粒が、東洋では黍粒きびが使われました。

日本では先に書いたとおり 6 世紀後半に中国から秤が入ってきました。重さの基準は時代ごとに変化していき、使用される錘も石製・鉄製などいろいろな種類のものが使われていきましたが、秤の基本的な構造はほとんど変化していません。量り方



守随文書より

は上図のように量りたいものを左のフックに引っ掛け、右側に定量の錘をのせ、それを秤についている目盛にあわせて左右に動かすことで重さを読み取っていきました。

明治時代以降は、西洋で発達した力学を応用して作られたバネ秤や台秤なども普及していきましたが、それらも昭和の 40 年代以降にはデジタル式に代わっていきました。



台 秤